

## 新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響(第3報)

—— 2021年8 - 9月に実施された北海道内の大学への第3回調査結果から ——

Effects of the COVID-19 pandemic among university students (Part3):

From the results of the second survey of universities in Hokkaido conducted  
in August-September 2021

飯 田 昭 人*	鎌 田 真 実**	水 野 君 平***
IIDA	KAMADA Mami	MIZUNO Kumpei
Akihito		
齋 藤 美 香****	入 江 智 也*	
SAITO Mika	IRIE Tomonari	
西 村 貴 之*****	川 崎 直 樹*****	
NISHIMURA Takayuki	KAWASAKI Naoki	

### 要旨

本研究は、縦断研究として取り組んでいる、「新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響」の第3回目調査(2021年8 - 9月実施)の報告である。ちなみに、1年前である2020年7 - 9月に実施した第1回目調査との比較を行うこととする。

まず、第1回目調査と第3回目調査の「居住形態」「奨学金の受給」「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」の差を分析するために、 $\chi^2$ 検定と残差分析を行った。「居住形態」については、「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる」「その他」が3回目調査では有意に少なく、「元々実家に住んでいる」「シェアハウス、親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている」が3回目調査では有意に多かった。「奨学金の受給」については差が認められなかった。「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」については、「経済的に困っている」が3回目調査では有意に少なく、「経済的にかなりゆとりがある」が3回目調査では有意に多かった。

次に、第1回目調査と第3回目調査の「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」、「オンデマンド授業の負担感」、「ライブ授業の負担感」、「Kessler 6 scale (K6)」、「Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7)」、「孤独感」の平均値差における Welch 検定を行った。その結果、「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」と「オンデマンド授業の負担感」において3回目調査のほうが有意に低かった。

---

\*教育文化学部心理カウンセリング学科 \*\*人間福祉学研究科  
\*\*\*北海道教育大学旭川校教員養成課程 \*\*\*\*札幌学院大学心理学部臨床心理学科  
\*\*\*\*\*生涯スポーツ学部スポーツ教育学科 \*\*\*\*\*日本女子大学人間社会学部心理学科

上記からは、2020年7－9月よりも2021年8－9月のほうが経済的困り感およびオンデマンド授業の負担感が減少しており、コロナ禍における大学生の生活においては、2021年のほうが2020年よりも経済状況の好転が認められるとともに、オンデマンド授業にも慣れてきていることが推察できた。

キーワード：新型コロナウイルス 経済的状況の認知 奨学金の受給 オンデマンド授業の負担感 ライブ授業の負担感 精神的健康 不安感 孤独感

## I. 問題と目的

2019年12月末から確認された新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的流行からすでに3年以上経過した。世界各国の累計感染者数は約3,200万人、死者は約7万人にも及び（NHK, 2022）、航空・観光・建設などの世界経済にも影響を及ぼした（Beh & Lin, 2021; Pinilla et al., 2021）。感染を阻止するための各国の政府の取り組みは、ソーシャル・ディスタンスなどの物理的な空間での隔離に大きく依存しており、対面での交流の減少（Dergaa et al., 2021）、家庭内暴力・児童虐待など深刻な問題を引き起こした側面もあった（Griffith, 2022; Haider et al., 2020）。

また、新型コロナウイルス感染症の流行により、不安、うつ病、不眠症などが大幅に増加しており（Bao et al., 2020）、特に苦痛や精神的健康上の問題を抱えやすい大学生においては喫緊の課題である（Ren et al., 2021）。その理由の一つには大学生生活の変化があげられる。実際に、学校の再開や試験の延期は、長期間の孤立をもたらした（Wang et al., 2020）、自宅での孤立はさまざまなストレスに直面させた（Fu et al., 2021）。

我が国の大学生においても、文部科学省から、大学等における遠隔授業の実施に当たっての学生の通信環境への配慮等についての通知が出されたことで、大学では暗中模索の中での遠隔授業が開始された。我が国においても、大学生のコロナに関する研究は、2020年4月時点半数の学生が将来的な経済的な不安を抱えていることを明らかにした全国調査（全国大学生活協同組合連合会広報調査部, 2020）や日本心理学会による特集号「新型コロナウイルス感染症と心理学」では、子育てのストレス、マスク着用に対する態度、感染予防行動、オンライン授業の効果を検討した知見が蓄積されている（山田, 2021）。また、ワクチンの接種が進んだ現在、大学においてはアフターコロナの時代に持続可能な教育・学生支援システムをDigital Transformationの展開とともに構築している最中である（文部科学省, 2020）。しかし、その一方で家庭の経済力、学校の指導力、地域の教育環境、本人の学修に対する自主性自律性の格差が指摘されている（日本財団, 2021）。

本報告は、2021年8－9月に実施した第3回調査のデータをもとに考察を行うとともに、2020年7－9月に実施した第1回目調査との比較検討を行うものである。

## Ⅱ. 方 法

### 1. 調査協力者と調査時期

#### 1) 調査協力者

北海道内の複数の大学に縁故法により依頼し、承諾の得た大学生、短期大学生、大学院生を対象とした。第1回は、909名（男性530名、女性362名、その他15名、未記載2名、平均年齢 $19.87 \pm 0.09$ 歳）、第3回目は、705名（男性278名、女性416名、その他11名、平均年齢 $19.48 \pm 0.10$ ）を分析対象とした

#### 2) 調査時期

調査時期は、第1回は2020年7月から9月、第3回は2021年8月から9月であった。

第1回調査時期（2020年7月～9月）は、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室によると、イベントの緩和がはじまりながらも、不要不急の外出自粛（特に札幌市に強く要請）、札幌市との往来自粛、施設の使用・催物の開催の停止、旧市学校の臨時休業等を要請などがされていた。

第3回調査時期（2021年8～9月）は、北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室によると、7月1日～7月11日、8月2日～9月30日までまん延防止等重点措置を開始され、措置区域である札幌市は不要不急の外出や移動の自粛、飲食店等に酒類の提供自粛や20時までの短時間営業などが要請されていた。

### 2. 倫理的配慮

研究に先立ち、筆頭著者所属機関の研究倫理審査の承認を得た。匿名性が保証されること、回答が任意であり、協力しないことによる不利益は一切ないことを明記し、Microsoft Formsを用いてWeb上で実施した。

### 3. 調査項目

#### 1) 居住環境や経済状況についての項目

居住環境は「元々実家に住んでいる」、「一人暮らしをしていたが新型コロナウイルスの影響で今は実家に住んでいる」、「今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている」、「シェアハウス・親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている」、「その他」の中から現在の住居環境に最も近いものを1つ選ばせた。

奨学金の受給状況は「もらっていない」、「大学生になって初めてもらっている」、「高校生の時から引き続きもらっている」、「その他」の中から最も近いものを1つ選ばせた。

アルバイトの就労状況は「大学生になってからはアルバイトをしていない」、「大学生の時からしていたが勤務時間が減らされている」、「大学生の時からしており今もほぼ変わらず勤務し

ている」, 「その他」の中から最も近いものを1つ選ばせた。

新型コロナウイルス感染症発生前後の経済的状況については、平井他（2015）の主観的経済指標を参考にして、「新型コロナウイルスが発生する前（した後）の、あなた自身の経済状態について、あなたはどのように感じていますか。」と各1項目で尋ねた。どちらも「経済的にかなりゆとりがある（1点）」から「経済的にかなり困っている（5点）」の5件法であった。

## 2) 講義の受講環境についての項目

オンデマンド型授業及びライブ型授業について、まずオンデマンド型は「教員が資料や動画等によって講義を行い、課題を提出するもので、リアルタイムには講義が行われないもの」と、ライブ型は「教員がZoomやTeamsなどによって講義を行い、時間割通りに講義が行われるもの」と説明した。オンデマンド型授業及びライブ型授業の負担感について、「まったく負担ではない」、「あまり負担ではない」、「どちらともいえない」、「すこし負担である」、「とても負担である」の5件法で尋ねた。

## 3) 精神的健康についての項目

Kessler 6 scale（以下、K6とする）日本語版（Furukawa et al., 2008）を「まったくない（0点）」から「いつも（4点）」の6項目5件法で尋ねた。

Generalized Anxiety Disorder 7-item（以下、GAD-7とする）日本語版（村松, 2014）を「まったくない（0点）」から「ほぼ毎日（3点）」の7項目4件法で尋ねた。

孤独感 Igarashi（2019）の3項目版孤独感尺度を「ほとんどない（1点）」から「よくある（3点）」の3件法で尋ねた。得点が高いほど孤独感が高いことを示す。

# Ⅲ. 結果と考察

## 1. 調査対象者の属性

対象者の属性についてはTable 1からTable 3に詳細を示した。

Table 1 性別

	1回目調査		3回目調査	
	人数	%	人数	%
女性	530	58.3	416	59.0
男性	362	39.8	278	39.4
その他, 答えたくない	15	1.7	11	1.6
未記載	2	0.2	0	0.0
合計	909	100	705	100

Table 2 学年

	1回目調査		3回目調査	
	人数	%	人数	%
1年生	297	32.7	351	49.8
2年生	284	31.2	167	23.7
3年生	199	21.9	108	15.3
4年生	103	11.3	69	9.8
上記以外	25	2.8	9	1.4
未記載	1	0.11	0	0.0
合計	909	100	704	100

Table 3 年齢

	1回目調査		3回目調査	
	人数	%	人数	%
18歳	178	19.6	213	30.2
19歳	263	28.9	210	29.8
20歳	213	23.4	148	21.0
21歳	127	14.0	80	11.3
22歳	57	6.3	41	5.8
上記以外	37	4.0	12	1.7
未記載	34	3.8	0	0.0
合計	909	100	704	100

## 2. 居住形態について

居住形態は、Table 4 のとおりである。「元々実家に住んでいる」が54.5%、「今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている」が37.0%と多かった。「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる。」が3.4%であった。

第1回目調査と第3回目調査の差を分析するため、 $\chi^2$ 検定と残差分析を行ったところ、「一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる」「その他」が3回目調査では有意に少なく、「元々実家に住んでいる」「シェアハウス、親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている」が3回目調査では有意に多かった。

以上の結果からは、3回目調査時は、実家などに避難等する学生が少なくなり、もともと住んでいた居住地に住んでいることが推察された。

Table 4 居住形態

	1回目調査			3回目調査		p値
	人数	%		人数	%	
元々実家に住んでいる	432	47.6	▽	384	54.5	▲ .006 **
一人暮らしをしていたが、新型コロナウイルスの影響で、今は実家に住んでいる	81	8.9	▲	24	3.4	▽ .000 ***
今もアパートやマンションなどで一人暮らしをしている	347	38.2		261	37.0	.623
シェアハウス、親せき宅などで家族以外の他人と暮らしている	19	2.1	▽	36	5.1	▲ .001 ***
その他	29	3.2	▲	0	0.0	▽ .000 ***
合計	909	100		705	100	

$\chi^2$ 検定 \*\* $p < .01$  \*\*\* $p < .001$  残差分析：▲ 調整済み残差  $> 1.96$  ▽ 調整済み残差  $< -1.96$

## 3. 奨学金受給状況

奨学金受給状況は、Table 5 のとおりである。「奨学金をもらっていない」が45.2%、「大学生になって初めて奨学金をもらっている」が49.0%と多かった。「高校生の時から奨学金をもらっていて、大学生になってからももらっている」が4.7%で、「大学生になって初めて奨学金をもらっている」と合わせると約54%の学生が大学で奨学金を受給していることが分かった。

第1回目調査と第3回目調査の差を分析するため、 $\chi^2$ 検定と残差分析を行ったところ、差は認められなかった。

以上の結果からは、奨学金の受給状況は2020年同時期の1回目調査とほとんど変わらないと考えられる。

Table 5 奨学金の受給

	1回目調査		3回目調査		p値
	人数	%	人数	%	
奨学金をもらっていない	371	40.9	318	45.2	.083 +
大学生になって初めて奨学金をもらっている	468	51.5	345	49.0	.312
高校生の時から奨学金をもらっていて、大学生になってからももらっている	53	5.8	33	4.7	.308
その他	16	1.8	8	1.1	.304
合計	908	100	704	100	

$\chi^2$ 検定 +  $p < .10$  残差分析：▲ 調整済み残差  $> 1.96$  ▽ 調整済み残差  $< -1.96$

#### 4. 新型コロナウイルス発生前後の学生自身の経済状況の認知について

新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知については、Table 6 のとおりである。

経済的困り群（「経済的にかなり困っている」「経済的に困っている」）は全体の19.3%であった。経済的ゆとり群（「経済的にかなりゆとりがある」「経済的にまあゆとりがある」）は全体の30.2%であった。経済的ゆとりなし・困りなし群は50.5%であった。

第1回目調査と第3回目調査の差を分析するため、 $\chi^2$ 検定と残差分析を行ったところ、「経済的にかなり困っている」が3回目調査では有意に少なく、「経済的にかなりゆとりがある」が3回目調査では有意に多かった。

2020年7－9月に実施した第1回目調査のときは、経済的困り群は25.5%であったことから第3回目調査時には第1回目調査時と比べて約6%減少していた。2021年7－9月時点において、少しずつ学生の経済的困り感が少なくなってきたことが認められる。しかし、3回目調査時における経済的困り群（「経済的にかなり困っている」「経済的に困っている」）が依然として約19%存在することから、2割の学生が経済的に困っている現状に対しては喫緊の対応が求められるだろう。

Table 6 新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知

	1回目調査		3回目調査		p値
	人数	%	人数	%	
経済的にかなりゆとりある	34	3.7	▼ 43	6.1	△ .027 *
経済的にまあゆとりがある	193	21.2	170	24.1	.169
経済的にゆとりがないが困ってはいない	450	49.5	356	50.5	.693
経済的に困っている	179	19.7	△ 103	14.6	▼ .008 **
経済的にかなり困っている	53	5.8	33	4.7	.308
合計	909	100	705	100	

$\chi^2$ 検定 \* $p < .05$  \*\* $p < .01$  残差分析：▲ 調整済み残差  $> 1.96$  ▽ 調整済み残差  $< -1.96$

## 6. 心理尺度について

各尺度の記述統計量を以下に示した (Table 7)。

Table 7 記述統計量

変数名	Mean	Median	SD	Min	Max	$\alpha$	Range
K6 (第1回)	6.69	5.00	5.93	0	24.00	0.9	0-24
K6 (第3回)	6.25	5.00	5.71	0	24.00	0.90	0-24
GAD-7 (第1回)	4.77	3.00	4.83	0	21.00	0.90	0-21
GAD-7 (第3回)	4.32	3.00	20.26	0	21.00	0.89	0-21
孤独感 (第1回)	4.73	4.00	1.83	3.00	9.00	0.86	3-9
孤独感 (第3回)	4.70	4.00	3.00	3.00	9.00	0.83	3-9

### 1) Kessler 6 scale (K6) について

川上ら (2006) によるカットオフ値として、気分・不安障害 (陰性) が 0～4 点, 気分・不安障害 (軽度) が 5～8 点, 気分・不安障害 (中等度) が 9～12 点, 気分・不安障害 (重度) が 13～24 点に区分されている。

川上ら (2006) の分類に従うと, 本調査の対象者は, 気分・不安障害 (陰性) が 331 人 (47.0%), 気分・不安障害 (軽度) が 154 人 (21.8%), 気分・不安障害 (中等度) が 114 人 (16.2%), 気分・不安障害 (重度) が 106 人 (15.0%) となった。

ちなみに, 飯田ら (2021b) が行った第 1 回目調査における 2020 年 7 - 9 月の時点での K6 では, 気分・不安障害 (陰性) が 45.1%, 気分・不安障害 (軽度) が 20.3%, 気分・不安障害 (中等度) が 17.5%, 気分・不安障害 (重度) が 17.1% であった。

2021 年 8 - 9 月の時点で, 対象学生の約 53% の学生がストレスを抱え, そのうち約 15% の学生は強いストレスによる気分・不安障害を伴っている可能性がある結果となった。

### 2) Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7) について

本研究では村松 (2014) にならい, 0～4 点はなし, 5～9 点は軽度, 10～14 点は中等度, 15～21 点は重度の症状レベルであると評価する。村松 (2014) の分類に従うと, 0～4 点は 424 人 (60.1%), 軽度の 5～9 点は 190 人 (27.0%), 中程度の 10～14 点は 60 人 (8.5%), 重度の症状レベルの 15～21 点は 31 人 (4.4%) であった。

ちなみに, 飯田ら (2021b) が行った第 1 回目調査における 2020 年 7 - 9 月の時点での GAD-7 では, 0～4 点は 58.1%, 軽度の 5～9 点は 25.3%, 中程度の 10～14 点は 11.1%, 重度の症状レベルの 15～21 点は 5.4% であった。

2021 年 8 - 9 月の時点で, 対象学生の約 13% が大きな不安感を抱えていることが見て取れる。また, 重症レベルである 15 点以上の学生が約 4% 存在し, これらの学生は依然として新型コロナウイルス下で強い不安感を抱えていることが示唆された。

### 3) 孤独感について

飯田ら（2021）が行った第1回目調査における2020年7－9月の時点での孤独感尺度短縮版では、平均値は4.73（ $SD=1.83$ ）であり、第3回目調査の4.70とあまり変わっていない。

孤独感尺度短縮版の日本語版を作成した Igarashi（2018）の調査（ $n=1,020$ ）では、平均値5.4（ $SD=1.72$ ）であった。Igarashi（2018）の対象者には、あらゆる階層や職種の間であったものの、本調査より孤独感の得点が高い。このことから、2021年7－9月の時点における大学生の孤独感は高いとはいえない結果であった。

### 7. 「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」, 「オンデマンド授業負担感」, 「ライブ授業負担感」, 「Kessler 6 scale (K6)」, 「Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7)」, 「孤独感」の平均値差

次に、第1回目調査と第3回目調査の「新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知」, 「オンデマンド授業負担感」, 「ライブ授業負担感」, 「Kessler 6 scale (K6)」, 「Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7)」, 「孤独感」の平均値差において Welch 検定を行った。その結果、「新型コロナウイルス発生後の経済的困り感」と「オンデマンド授業の負担感」のみ、3回目調査のほうが有意に低かった。また、「ライブ授業負担感」と「Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7)」においては、3回目調査のほうが低い傾向が確認された。第1回目調査と第3回目調査の「Kessler 6 scale (K6)」, 「孤独感」についての平均値については、その差が認められなかった。

以上の結果からは、1回目調査時の2020年7－9月に比べて、3回目調査時の2021年7－9月のほうが、経済的困り感を抱える学生の割合が減少し、オンデマンドおよびライブ講義の負担感も減っており、全般的な不安感（GAD-7）も減少傾向であることがうかがわれた。

Table 8 新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知, オンデマンド授業負担感, ライブ授業負担感, K6, GAD-7, 孤独感の平均値差の Welch 検定

変数	1回目調査 ( $n=909$ )	3回目調査 ( $n=703$ )	t ( $df$ )	d [95%CI]
	M (SD)	M (SD)		
新型コロナウイルス発生後の経済状況の認知	3.026 (0.890)	2.877 (0.897)	3.339	1508.080 **
オンデマンド授業の負担感	3.290 (1.290)	2.754 (1.209)	8.560	1550.272 ***
ライブ授業の負担感	3.196 (1.206)	3.080 (1.191)	1.927	1515.766 +
Kessler 6 scale (K6)	6.693 (5.927)	6.251 (5.709)	1.517	1539.133
Generalized Anxiety Disorder-7 (GAD-7)	4.766 (4.828)	4.316 (4.501)	1.927	1558.712 +
孤独感	4.726 (1.832)	4.701 (1.731)	0.285	1550.832

\*\*  $p < .01$  \*\*\*  $p < .001$  +  $p < .10$



#### IV. まとめと今後の展望

本研究は、北海道内の大学生が新型コロナウイルスによる緊急事態宣言が解除された2021年8月から9月までの時期を対象に、経済状況の認知や精神健康面などについての調査を報告したものである。

調査の結果としては、2020年7－9月に実施された第1回目調査と比べると、今回は、緊急避難として実家に住んでいた割合が減少し、元々の居住地で暮らしていることが分かった。

また、経済状況の認知に関しても、第1回目調査と比べて、第3回目調査時では、有意に経済的困り感が低くなった。このことから、大学生全体としてみる場合は、経済的困り感が低下しているものの、依然として約19%の学生に「経済的困り感」があることは特筆すべきことであろう。

そして、精神的健康においても、依然として13～15%の大学生に強いストレスによる気分障害や不安障害が認められていることから、大学組織全体で丁寧に見ていく必要があるとともに保健センターや学生相談室、また外部の専門機関などとの連携が求められるといえる。

本調査は、第3回（2021年8－9月）について中心に報告してきたが、第4回（2022年2－3月）、第5回（2022年8－9月）がすでに実施されている。経年変化を追いながら、アフターコロナを見据えた学生支援モデルの構築を行っていきたい。

#### 引用文献

- Bao Y., Sun Y., Meng S., Shi J., Lu L. (2020). 2019-nCoV epidemic: address mental health care to empower society *Lancet*, 395 (10224), 37-38.
- Beh L.-S., Lin W.L. (2021). Impact of COVID-19 on ASEAN tourism industry *Journal of Asian Public Policy*, 15, 300-320.
- Cao, W., Fang, Z., Hou, G., Han, M., Xu, X., Dong, J., & Zheng, J. (2020). The psychological impact of the COVID-19 epidemic on college students in China. *Psychiatry Research*, 287, 112934.  
<https://doi.org/10.1016/j.psychres.2020.112934> 【閲覧日2023年1月9日参照】
- Fu, W., Yan, S., Zong, Q., Anderson-Luxford, D., Song, X., Lv, Z., Lv, C. (2021). Mental health of college students during the COVID-19 epidemic in China. *J Affect Disord.*
- Griffith A.K (2022). Parental Burnout and Child Maltreatment during the COVID-19 Pandemic. *J Fam Violence*, 37(5): 725-731.
- Dergaa, I., Abdelrahman, H., Varma, A., Yousfi, N., Souissi, A., Ghram, A., Hammad, A.S., Musa, E.R., Taheri, M., Irandoust, K., (2021). COVID-19 Vaccination, Herd Immunity and the Transition toward Normalcy: Challenges with the Upcoming Sports Events *Ann Appl Sport Sci*, 9 (3).

Haider I.I., Tiwana F., Tahir S.M. (2020). Impact of the COVID-19 Pandemic on Adult Mental Health *Pak J Med Sci*, 36, 90-94.

平井美佳・神前裕子・長谷川麻衣・高橋恵子（2015）. 乳幼児にとって必須な養育環境とは何か：市民の素朴信念 発達心理学研究, 26 (1), 56-69.

北海道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室ホームページ

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/covid-19/koronasengen.html>

【閲覧日2023年1月9日参照】

Igarashi, T. (2019). Development of the Japanese version of the Three-Item Loneliness Scale. *BMC Psychology*, 7 (20), 1-8.

飯田昭人・水野君平・入江智也・川崎直樹・斉藤美香・西村貴之（2021a）. 新型コロナウイルス感染拡大状況における遠隔授業環境や経済的負担感と大学生の精神的健康の関連 心理学研究, 92 (5) 367-373.

飯田昭人・水野君平・入江智也・川崎直樹・斉藤美香・西村貴之（2021b）. 新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響（第1報）～北海道内の大学への調査結果から～ 北翔大学生涯スポーツ学部研究紀要, 12, 147-158.

Irawan, A.W., Dwisona, D., & Lestari, M. (2020). Psychological impacts of students on online learning during the pandemic COVID-19. *Jurnal Bimbingan dan Konseling*, 7, 53-60. <https://doi.org/10.24042/kons.v7i1.6389> 【閲覧日2023年1月9日参照】

川上憲人・近藤恭子・堤 明純・廣川空美・岩田 昇・竹嶋 正（2006）. うつ病・自殺予防対策のためのスクリーニングツールとしてのK6/K10調査票の妥当性 日本公衆衛生学会総会抄録集.

文部科学省（2020）. 大学等における新型コロナウイルス感染症への対応状況について

[https://www.mext.go.jp/content/20200917-mxt\\_koutou01-000009971\\_14.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200917-mxt_koutou01-000009971_14.pdf)

【閲覧日2022年12月1日参照】

村松公美子（2014）. Patient Health Questionnaire (PHQ-9, PHQ-15) 日本語版および Generalized Anxiety Disorder -7日本語版-up to date- 新潟青陵大学大学院臨床心理学研究, 7, 35-39.

NHK（2022）. 特設サイト新型コロナウイルス新型コロナウイルス 日本国内の感染者数・死者数・重症者数データ | NHK 特設サイト（閲覧日：2023年2月13日）

日本財団（2021）18歳意識調査「第33回-教育格差-」詳細版.

[https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/01/new\\_pr\\_20210107\\_5.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2021/01/new_pr_20210107_5.pdf)

【閲覧日2023年1月9日参照】

Pinilla J., Barber P., Vallejo-Torres L., Rodriguez-Mireles S., Lopez-Valcarcel B.G., (2021). Serra-Majem L. The Economic Impact of the SARS-COV-2 (COVID-19) Pandemic in Spain *Int J Environ Res Public Health*, 18 (9), 4708.

山田祐樹 (2021). 新型コロナウイルス感染症と心理学 心理学研究, 92 (5), 321–326.

全国大学生協同組合連合会 (2020). 「緊急！大学生・院生向けアンケート」大学生結果速報  
[https://www.univcoop.or.jp/covid19/enquete/pdf/link\\_pdf01.pdf](https://www.univcoop.or.jp/covid19/enquete/pdf/link_pdf01.pdf)

【閲覧日2023年1月9日参照】

Ziyuan Ren, Yaodong Xin, Junpeng Ge, 3, Zheng Zhao, 1 Dexiang Liu, Roger C.M.Ho, and Cyrus S.H. (2021). Psychological Impact of COVID-19 on College Students After School Reopening: A Cross-Sectional Study Based on Machine Learning Front Psychol, 21.

